別添

保護者のみなさまへ

クマ出没時の対策を家族で確認しましょう

近年、各地でクマの出没が増加しています。
登下校中も含め、子供たちの安全を守るためにはご家庭での声かけや地域での見守りが不可欠です。
日頃から、次のポイントについて、お子様と一緒にご確認をお願いします。

1 クマの生態について

①日本のクマ

日本に生息するのは「ヒグマ」と「ツキノワグマ」の2種類。

【ヒグマ】（北海道に生息）

体長180-200cm
体重150-300kg
（最大400kg）

【ツキノワグマ】（本州・四国に生息）

体長120-145cm
体重70-120kg

クマの足あとの特徴

「美の国あきたネット　ツキノワグマ情報」より

- 前足の幅
  ヒグマ　12～18cm
  ツキノワグマ　7～13cm
- 前足と後足で足跡の形が異なる
- 指が５本

②クマってどんな動物？

- 学習能力が高い
  特に食べ物に対する学習能力が高く、執着する。
- においや音に敏感
  人や犬よりも鼻や耳がよくにおいに敏感で、わずかな音も聞きとることができる。
- 足が速い
  時速40km～60km程度で走ることができる。

③クマはどこにいる？

クマが生息するのは森が中心。
近年は、

- 草がしげった場所
- 川沿い
- 果実などがある農地や人里

などにも出没。

道総研エネルギー・環境・地質研究所提供

2 クマの出没情報の確認

自治体が発表しているクマの出没情報をこまめに確認しましょう。
※環境省QRコードや各自治体の出没情報へリンク

環境省
国民向けの
クマに
関する情報

クマはいつどこに出るか分かりません。
「知ること」「備えること」が、子供たちの命を守ります。

3 クマに出会わないために

子供たちと確認したいポイント

①ひとりで行動しない

友だちと一緒に
行動しましょう。

②“声”や“音”で人がいることを伝える

声や音、手を叩くなどして、自分がいることをクマに知らせましょう。（外では友だちと大きな声で話す、クマ鈴を持つなど。）

クマ鈴

③クマがいそうなところには近づかない

クマの足あとやフン、
爪あとを見つけたら、
その場から離れましょう。

「美の国あきたネット
ツキノワグマ情報」より

4 もしも、クマに出会ってしまったら…

落ち着いて
行動するために

①クマを見ながら、あわてず、ゆっくり、その場をはなれる

クマを刺激しないように
大声を出さないにしましょう。
（背中を見せて走ると、追いかけられることがあります。）

②近くのお家に逃げて、助けを求める

安全な場所に逃げ込み、
大人に助けを求めましょう。

襲われそうになった場合

急所を守る ※あくまでも最終手段

両腕で後頭部を覆いうつ伏せになるなどして致命的ダメージを最小限にとどめましょう。

防御姿勢の取り方の例

5 学校・保護者・地域の皆さまへのお願い

- ✓ 日頃から、自治体が出すクマの出没情報を確認しましょう。
- ✓ 通学路や校地内を点検し、クマが隠れそうな場所がないかを確認しておきましょう。
- ✓ クマが隠れそうな場所のヤブを刈払い、見通しをよくしましょう。
- ✓ 関係者間でクマが出没した際の対応（登下校時の対応）や連絡体制を確認しておきましょう。
- ✓ 児童生徒への安全教育・指導とクマ遭遇時の対処訓練をしましょう。

動画「クマにおそわれないための３つのお約束」
（政府広報・文部科学省・環境省）

【参考資料及び主な図、イラストの引用元】
環境省「クマによる人身被害の分析レポート」、「クマ類の出没対応マニュアル－改訂版－」、「豊かな森の生活者　クマと共存するために」、
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構WEBサイト、美の国あきたネット（秋田県公式サイト）ツキノワグマ情報より

【問い合わせ先】
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室　03－5253－4111
環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室　03－5521－8285